

〔オキシリニック酸水和剤〕

農林水産省登録 第17203号
 性 状：類白色水和性粉末 45 μ m以下
 毒 性：普通物
 危 険 物：—
 有効年限：4 年
 包 装：100g \times 100袋、500g \times 20袋

スターナ® 水和剤

有効成分：オキシリニック酸……………20.0%

補助成分：ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル(PRTR・1種)…3.0%以下



こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の新しい情報をご覧になれます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

〔適用と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法	
稲	もみ枯細菌病	20倍	—	浸種前	本剤：1回 オキシリニック酸 ：3回 (#1)	10分間種子浸漬	
		200倍				5~24時間 種子浸漬	
		400倍				24時間種子浸漬	
		400~800倍				48~72時間種子浸漬	
		乾燥種子重量の 0.3~0.5%				種子粉衣(湿粉衣)	
		20倍				10分間種子浸漬	
		200倍				5時間種子浸漬	
	苗立枯細菌病	7.5倍	乾燥種籾1kg 当り30ml	浸種前	吹付け処理 (種子消毒機使用) 又は塗沫処理	10分間種子浸漬	
		20倍	—	浸種後			24時間種子浸漬
		200倍		種子粉衣(湿粉衣)			
	褐条病	乾燥種子重量 の0.5%	—	浸種前	10分間種子浸漬	24時間種子浸漬	
		20倍		浸種後			
		200倍		吹付け処理 (種子消毒機使用) 又は塗沫処理			
	もみ枯細菌病 葉鞘褐変病 内穎褐変病	1000倍	60~150 ℓ	穂ばらみ初期 ~乳熟期 但し、21日前	本剤：2回 オキシリニック酸 ：3回 (#1)	散布	
7日前							
はくさい キャベツ	軟腐病・黒斑細菌病	100~300 ℓ	7日前	3回	散布		
たまねぎ	軟腐病			5回			

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
ばれいしょ	軟腐病	1000倍	100~300ℓ	7日前	本剤:5回 オキシロニック酸 :5回 (#2)	散布
こんにゃく	腐敗病			14日前		
		30~100倍	種いも1㎡ 当り150ml	植付前	本剤:1回 オキシロニック酸 :6回 (#3)	種いも 吹き付け処理
たばこ	空洞病	1000~1500倍	25~180ℓ	10日前	2回	散布
にんじん	軟腐病 斑点細菌病	1000倍	100~300ℓ	7日前	3回	
だいこん	軟腐病			2000倍	14日前	
カリフラワー		黒斑細菌病				
ブロッコリー	軟腐病			前日	3回	
はなっこりー ピーマン		斑点細菌病 軟腐病			7日前	
レタス	腐敗病			14日前	3回	
非結球レタス		14日前				
セルリー	軟腐病	1000倍		7日前	2回	
ねぎ						
らっきょう		1000倍		7日前	2回	
チンゲンサイ						
さんとうさい		100~500ℓ		前日	3回	
エンダイブ						
パセリ	200~700ℓ	7日前		3回		
アスパラガス					1000倍	
ズッキーニ	軟腐細菌病	200~700ℓ		7日前		
なし					枝枯細菌病	
もも	せん孔細菌病	200~700ℓ		7日前		
ネクタリン					かいよう病	
小粒核果類 (すももを除く)	黒斑病	100~300ℓ		—		5回
すもも			斑点細菌病		100~300ℓ	
きく	30倍	100~300ℓ		—		5回
カラ			軟腐病		30倍	

#1: 稲もみへの処理は1回、は種後は2回

#2: 種いも浸漬は1回

#3: 種いもへの吹き付けは1回、植付後は5回

効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきる。
- 浸漬処理の場合は、籾と薬液の容量比は1：1以上とし、種籾はサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆする。
- 長時間浸漬の場合は、浸漬処理中に1～2回攪拌する。
- 粉衣処理は付着をよくするため、湿粉衣とする。
- 薬液処理した種籾は、風乾後、水洗いせずに浸種する。
- 消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として初めの2日間は行わない。その後水を換える場合は静かに行う。
- 稲に吹き付け処理する場合、種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥する。また、塗沫処理の場合は、適当な容器内で種籾を攪拌しながら、薬液を滴下するなどして、種籾に均一に付着させる。
- カラーに吹き付け処理する場合、噴霧器を使用し、球根全体に薬液を付着させる。また、薬剤処理後、風乾してから球根を定植する。
- 野菜類の細菌病に使用する場合、多発条件下では効果が劣る例もみられるので注意する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないよう注意する。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受ける。
- 眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗する。(弱い刺激性)
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。
また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
12頁記載の注意事項、(1)、(2)、(3)、(4)－Cも合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

- 作用機作は細菌のDNAの複製阻害によるものと考えられています。
- グラム陰性菌に効果がありますがグラム陽性菌には効果が期待できません。
- 予防的な散布で効果があります。
- 散布のほか、稲の種子消毒(種子浸漬、種子粉衣、吹き付け又は塗沫)、こんにゃくの種芋消毒に使えます。
- もみ枯細菌病防除には出穂直前と出穂5日後の2回散布すると効果が安定します。